

●トラック1:プロローグ-正義心との対面-

●背景:電車内(日中)

(主人公、電車に乗っている)
(別の女性の痴漢していた男、逃げ出す)

あっ！ 逃げるなッ！
あの男痴漢です！
誰か追いかけて！

(主人公、追いかける)

●背景:ホーム(日中)

(5～10秒ほど追いかけて、男を押し倒す)
(遅れて緋咲が走ってくる)

はあっ、はあ……っ。
貴方は……？

(主人公「捕まえましたよ！」)

捕まえてくれたんですね……。
あっ、ありがとうございます……！

(時間移動)
(犯人逮捕後、改めて向かい合って会話をするふたり)

ありがとうございました。
私が痴漢を捕まえるはずが、電車のドアが開いた途端に振り払われて……。
我ながら情けないですよ。
犯人に逃げられてしまうなんて。

(主人公「触られちゃったの？」)

あ、いえ！ 私は被害者じゃなくて。
というより。
貴方は見てなかったのに、援護してくれたんですか？

フフ、尊敬できる大人ですね。
じつは痴漢されてたの、私の友人でして。
逃がしていたら友人に顔向けできないところでした。
ほんとに、ありがとうございます。

犯人は駅の方が連れていきましたので、
我々の役目はここまでですね。
あ、よければ連絡先を共有しませんか？
改めてお礼がしたいので。

私は御村緋咲(みむらひさき)。
生徒会長をしています。

=====

●トラック2:緋咲の日常

●背景:生徒会室(夕方)

(このトラックは緋咲の視点になります)
(トラック1の当日)

◆結

ええっ！ 痴漢を助けようとしたんですか！？
危ないですよー、ほんとにいい。

◆緋咲

私のことはどうでもいいの。
友人を助けたかっただけなんだから。
手を払われたけど……怪我なんてしてない。触られた本人の心以外は無事よ。

◆結

もお……こないだもそんなこと言って、
自転車の窃盗犯追いかけてましたしー……。
会長はもう少し自分の可憐さに気づいてくださいよ。
もし自分が標的になったらどうするんですかぁ。

◆緋咲

……ええ。肝に銘じておくね。

◆結

で、最初に言ってたその助けてくれた男性とは、
ちゃんと連絡取ったんですか～？

◆緋咲

ううん。大人の人だったから、夕食時にでも連絡を返す予定。

◆結

ずーっと思ってたんですけど……。

◆緋咲

ん？ なに？

◆結

もしかして……。
会長、それ運命かもしれませんよ……。！

◆緋咲

はっ？ う、運命？

◆結

運命です運命！
正義感溢れる会長と正義感溢れるお兄さん！
運命じゃないですか～っ？
脈ありそうならすぐ連絡取るべきです！

◆緋咲

はあ？ 言っておくけど相手は大人の人なのよ？
それに恩人ではあるけど——

◆結

そんなこと言ったら青春終わっちゃいますよーッ！

◆緋咲

なっ、なにをそんな……。

◆結

お礼はデートですデート一択！
会長みたいに可愛い人が誘ってきたら絶対喜ぶに決まってます！

◆緋咲

だ、だから私、そういうの——

◆結

善は急げです！ いますぐ！ ここでやりとりしてください！

◆緋咲

はあ……わかったわよ。
約束、するだけよ？
社会人との交際なんて、絶対にあり得ないし、会長の私が規律を無視するなんて絶対にしちゃいけない。わかる？

◆結

それはもう会長次第ですよ？

◆緋咲

はあ～……。
ダメなものはダメなんだってば……。
恋愛禁止は我が校のルール。
それに大人との交際なんて……絶対にダメ。
まあ、お礼くらいは……ちゃんとした方がいいわよね。

◆緋咲

でも……。

◆結

ん？ なんです？

◆緋咲

デートって、どう誘えばいいの？

したことないんだけど……。

◆結

はあ～……先が思いやられます……。

◆緋咲

わ、悪かったわね……。

◆結

わたしが教えますので、その通りにやってくれば大丈夫ですよ～。

◆緋咲

わかったわ……。

はあ……ノリじゃないのに。

トントン拍子に進むわねえ……。

=====

●トラック3:人生初デートな生徒会長

●背景:カフェ(夕方)

(トラック2の数日後)

(主人公と緋咲、向かい合って座る)

はあ……っ。

あ、ごめんなさい！

こちらからお誘いしたのにため息なんて……！

ち、違うんです……。
あの、デートというものを……経験したことがなくて……。

ススス……。
はあ……。
それに……大人の人とのこうした密会って、許されるんでしょうか……。

自己防衛のために言いますが……この場合は、生徒会のメンバーがちゃんとお礼をしろと言って
設けた場であって……私個人がやましい気持ちでお誘いしたとかじゃありません……。

(主人公「生徒会長なんだよね」)

へっ？
はい、生徒会長です。
話は変わりますが、うちの家系……母は弁護士、父は医者……親戚も官僚や会社経営者など、
それぞれ立派な職を手を持つ人ばかりです。
活かせる肩書きはなんでも利用しなさい……幼少の頃にそう教わるくらい、両親も身分や階
級に熱のある人間です。

なので1年の頃に当時の会長に弟子入りをして——まあ、いま思えば中々破天荒な行動です
が、そうした人目につく行動をすることで支持を集め、会長になりましたね。

(主人公「すごい行動力……」)

フッフ。そうですね？
行動力には自信があります。

(主人公「将来の夢は？」)

……夢、ですか？
そうですね……。

検察、ですね。
先日の電車の件もですが、私は自分の正しいと思ったこと、譲れないものを職という形にして、
誇りを持って働きたいんです。
なので結婚して家庭に入るとか、そのようなビジョンはありません。

(主人公「好きな人とかいないの？」)

好きな人？

あ、あの……私のこと聞いてばかりじゃないですか？

デートなんですから、貴方のことも聞きたいんですが……ダメ、ですか？

(主人公「好きな人がいるか教えてくれたら」)

教えなきゃダメなんですか？

もお……。

いませんよ。

寄ってくる人はそれなりにいましたが、みんな下心が透けて見えるので。

一喝して追い払い続けてきました。

(主人公「格好いいね」)

フフフ。格好いいですかね？

私、ちゃんと目を見てくれる人が好きなんです。

胸ばかり見る人とは距離を置きますが……その点、貴方はずっと目が合うので、きっと下心のない人なんだなと。ステキだなと思いますよ？

ステキだと思っても、年齢の問題でお付き合いは無理ですけどね。フフフ。

私が卒業するまで待つてくださるなら、考えますけどね？

(主人公「ダメ？」)

えっ？ だ、ダメに決まってますよっ？

冗談で言ったのに、真に受けられても……っ！

はあ……そういう冷やかしは困ります……。

(主人公「今はダメ？」)

だ、ダメです……。

いまは、ほんとうに。

うちの学園、恋愛禁止ですし……。
会長がルールに背いて大人と交際なんて……。

(主人公「俺、じつは婚活中なんだ」)

えっ？ 婚活中？
大人ですもんね……そういうこともあります、よね。
立ち入ったことを聞きますが……お相手は……まだ？

(主人公「全然」)

そうなんですか……もったいないですね。
まだ貴方のことをよく知りませんが……人柄のよさはわかってます。
もったいないですよ……ほかの人達。
貴方のよさに気づけないなんて。

(緋咲、主人公の魅力に気づいたため交際を悩む)

……………ん～～……………どうしよう。

(主人公「ならつき合う？」)

だ、だから私とお付き合いは……ッ！

(照れを紛らわせるためにお茶を啜る)

ススス……っ。
はぁ……ッ。
本気でしたら……、
もう一度……デート……しませんか？

私も、恋を知らないよりは知った方がいいとは思ってます。
検察の仕事の際も、そうした感情の理解の有無が、人に寄り添えるのではないかと。

なので、デートを重ねて、
恋のよさを教えてください。

……当然、お付き合いはできませんが。

=====

●トラック4:初めての異性の部屋で初めての…！

●背景:車内(夕方)

(トラック3の数日後)

(右ハンドル車の運転席に主人公。助手席に緋咲)

わざわざ送り届けてくださって、ありがとうございます。

それと、

デート、楽しかったです。

正直、大人とのデートにいささか問題を感じていますが……。

(主人公「夜になっちゃうけど平気？」)

はい。夜に到着しても問題ないです。

両親には友人の家で勉強をと伝えてあるので。

……そういえば、痴漢に遭っていた子が友人だと話しましたっけ？

(主人公「聞ってるね」)

はい。その子に貴方のことを伝えてたんです。

感謝の言葉を預かってますよ？

ありがとうございます、って。

その子が言うんですよ。

私にやっと春が来たって。貴方との関係をさも自分事のように喜ぶんです。

まだお付き合いどころか、学生の身分での交際なんて無理だと説明してるんですけど……春は過ぎるから逃がさないように、と。

生徒会の子にも同じようなこと言われてますが……。

はあ……。
どうすればいいんですかね……。

(主人公「じつは」)

え？ なんですか？

(主人公「婚活でよさそうな人とやりとりしてる」)

え……っ！？
こ、婚活のお相手……ッ！？
もう、見つけてしまったんですか！？
そのっ、で、デートは……っ？

(主人公「いや、まだ。やりとりだけ」)

そうですか……！
やりとり、だけ……。
あの……っ！
お家に案内してください！
覚悟決めました！

(主人公「覚悟って、な、なにを？」)

貴方と交際する覚悟です！
誰かに譲るくらいなら私が……ルールに背いてでも射止めます！
だから、チャンスをください！
お家に、連れて行ってください！

(場面移動)

●背景:主人公の部屋(夜)

(緋咲、主人公の部屋に上がる)

すごい……。

これが……男性の部屋……ッ。

初めて上がりました……。

いや、兄はいるんですが——

まったく別の人種の人部屋は初めてで……。

兄は……法律関係の本ばかりですから……。

(主人公がベッドに座り、緋咲が少し離れて立つ)

誰とも同棲されてないんですよね？

(主人公「女の子上げたの初めてだよ」)

こ、この部屋に上がったの……わ、私が初めて？

……清廉潔白な方なら、なおさら——

よし。

あの……。

失礼します……！

(緋咲からキス)

ちゅ……っ！

ご、ごめんなさい！

あのッ！ おおおっ、大人には、こういうストレートな表現がいいって、友人が……！

それで、キスはですね……ッ！

あ、あああああ愛です……ッ！

すう、はぁっ、すう、はぁ……ッ。

単刀直入に申し上げます！

私と、交際して下さいますか！？

お願いします……っ！

(主人公「お、お堅くないかな」)

か、堅いですか……っ？

でも、私はこういう人間……いきなり貴方好みの女にはなれません。
なれませんが、少しずつ……貴方に好かれる女になりますので……！
どうか、お願いします……！

（主人公「わかった」）

い、いいんですか！？

あの……っ、誰にも言えませんし、色々と妥協を敷いて迷惑をかけることになりますよ！？

（主人公「正直、好みだから」）

こっ、好み……っ！？

私が……ッ！？

そんな、恐れ多いことを……っ。

私なんて、可愛げのない真面目ちゃんですよ……？

でも、そんな私でも……貴方の喜ぶことは、覚えてきました。

え、エッチ、ですよね……？

下心はなくても、恋人ならそれをして然るべき。

私も、覚悟を決めました……します。

ただ、触るには気持ちが足りないので……そのっ……。

する、ところを……見てるだけでも、いいですか……っ？

（主人公「見るって、なにを？」）

だっ、だから！ そのっ！

ひとりで、です……っ！

ひとりで、するところ……ッ。

（主人公「……わかった」）

えっ！？ いいんですか！？

(ズボンを脱ぐ)

そ、そんないきなり！？
待ってください……っ！
心の準備が……ッ！

(パンツを脱ぐ)

へ……っ！？
この音は、な、なにを脱いで……ッ！

(主人公「見ていいよ」)

み、見ていいって……もしかして——もう、脱いだんですか……？
すう、はあ……すううう……っ。
わかり、ました……。
見ます……見ますよ。
私だっていつかは、致すんですから……ッ！

(緋咲、初めてペニスを見る)

ううう……っ！
こ、こんなに……っ。
えっ？ これって……普段から、こんな形状に……？

(主人公「勃ってるんだよ」)

たっ、たっ？ あ、これが生理現象の……。
そ、そっか……こ、これが……ぼ、ぼ……勃起……。
不思議な形、ですね……。

わっ！ な、なにをして……っ！
やだやだやだ……ッ！
見てられませんか……っ！
恥ずかしくてっ、うう……っ、耐えられない……！

(主人公「じゃあ、最初はキスだけしてみる？」)

ふう……う……んんう……。
き、キスだけ……？
わかりました……キスなら、さっきしましたし——
い、いきますよ……？

(緋咲からキス)

ちゅ……ちゅ……ん……ちゅつ。
これで、いいですか……？

(主人公「続けてみて」)

……続けるんですか？
は、はい……。
ちゅん、ちゅ……ちゅ……ちゅ、
言われた通りに……ちゅ、ん……ちゅ、やっています……。

ちゅ……ちゅ……ちゅ……ん……チュツ。
ぷちゅ……ちゅ……ちゅ……う、ちゅ……。
ちゅ……んう、ちゅ……つ。
熱くなっています……つ、ちゅ、ちゅ……。
これ、どうして……？

ちゅ……つ、んん、ちゅ……。
チュツ……んん、ちゅ……。
ぷちゅ、ちゅ……んん、ちゅ……ン……。

ちゅん、ちゅ……ふう……う、ん、ちゅ……。
チュツ……まだ、ですか……？
ちゅ……ん……ちゅ……全然詳しくないんですが……、
ちゅ……チュツ、どれくらいで……達するもの、なんですか……？

(主人公「なにが？」)

ちゅ、ちゅ……な、なにがって……、
ちゅッ……んぷ、ちゅ……い、陰茎です……。
ちゅん、ちゅ……さすがに、子作りの仕組みは理解してますよ？
ちゅ……っ、ぷちゅ、ちゅ……ん……。

ちゅ……ちゅ、ちゅ……っ、ちゅ……。
射精は、気になってはいたので……ちゅ、ぷちゅ、ちゅ……、
見てみたい気持ちも、あります……。
ちゅ……ちゅ、射精させるには……どうすれば……。

(主人公「命令してみて」)

んちゅ、ちゅ、へ？ 命令？ 私が、するんですか？
ちゅ、ちゅ……んん、ちゅ、なにを、命令するんですか？

(主人公「もっと早くシコシコしてって」)

ちゅ……ちゅ、しこしこ？
しこしこって、なんですか？
早くしこしこして……そう言えばいいんですか？
ちゅ……んん、ちゅ……んむ、ちゅ、ちゅ……まあ、わかりました。
ちゅ、ちゅ……ちゅ、もっと、早くしこしこして？

ん……っ！
あ……っ、い、陰茎を……そんな早く……っ。
大丈夫ですか……？
そんなに強くしたら、痛くなってしまいますよ？

(主人公「大丈夫……見てて」)

へ？ は、はい……じゃあ、見えます……。
ふうう……んう……男性が自慰をする光景を……、
こんな大胆な距離で……。

んう……う、ん……。
見てはいけないものを見てる罪悪感がしますね……。

それに――

スンスン。

独特な匂いがして……………んうう、ちょっと……、
変な気分になります……。

(主人公「出るよ」)

へっ？ 出るんですか？

は、はい……っ、どうぞ、出してください……。

(主人公「スカート捲って」)

す、スカートを捲る？

どういうリクエストなんですか！

あっ、射精ですか？

射精する場所ですよ？

パンツは見せられないので……ふ、太ももでしたら――

(太ももにぶっかけ射精)

ひゃッ！

あっ……あっ、あああ……っ！

精液が……私の、股に……！

ああっ……熱もありますが、なんでしょう、これ……不思議なぬめり気……。

こんなものが……男性の中に……？

ふう……。

見せてくれて、ありがとうございます……。

恥ずかしくて、まだまだ慣れないことも多いですが……、

何度か同じ経験ができれば……きっと、耐性もつくかと思います。

それと！ 一応釘を刺しておきますけど、

ふしだらなエッチはぜ～～～～～ったいにしませんからね？

下心NG！

愛のある関係を所望します！

いい？

それが、私との恋愛です！

私だって、恋愛禁止の御法度を破ってまで関係を深めるんですから……ッ！

貴方にも、真面目に向き合ってもらいます……！

いい、ですね……？

=====

●トラック5:初のお泊まり＆ファーストチンタッチ！

●背景:主人公の部屋(夜)

(主人公、部屋でくつろいでいる)

(少し遅れて起き上がる)

●背景:廊下(夜)

(玄関外に大きなトランクケースを持つ緋咲)

夜分遅くにすみません。

部屋に、上げてもらえませんか？

(主人公「どうして制服？」)

制服なのは——

それもまた、あとで説明します。

では、上がらせていただきますね。

(場面転換)

●背景:主人公の部屋(夜)

(緋咲、ベッドに座る。主人公は立っている)

ふう……。

あの、いいんですか？

こんな——

ベッドに座らせてもらって……。

(主人公「気にしないで」)

は、はい……ありがとうございます……。

(主人公「それで、どうしてあんな荷物持って来たの？」)

そうですね、本題に入りましょう。

もうすでに何度かのデートを重ねてきたじゃないですか？

ここで一度……お泊まりを経験したいと思って。

(主人公「極端じゃないか？」)

きょ、極端ですか？

私としては一生懸命考えた結果なんですが……。

デートを何度経験しても、私はいまだ緊張してます。

貴方を完全に恋人として見られず……やはり大人との交際は許されるのかと、日々自問自答を繰り返し……。

そこで、結論に達しました。

一つ屋根の下の生活を経験し、大人としてのステップアップをすれば、心身ともに貴方を恋人と認められるのではないかと。

私だって嫌々つき合っているわけじゃありません。

貴方を素晴らしい男性と慕ってます。

だからこそ、恋人としての心構えを身につけ……勉強と同じく、貴方との関係も大切にしたいんです。

……そのためにも、性行為が大事です。

隣、座ってください。

すぐに始めましょう。

意識してしまうと……余計に緊張するから、早めに済ませたいんです。

では……見せてください……。

見たいんです……今日は、自分の意思で……。

(主人公「ほんとにいいの?」)

はい……見たいんです。

う……っ!

ダメ……っ! 顔を背けちゃ……ッ!

はあ……は、反応してるみたい、ですね……?

パンツも、脱いでくれますか……?

う……っ!

すう、はあ……すう……っ!

……見ますよ……?

あああ……!

さ、さっきより……大きくなって……?

なにもしてないのに……こうなるの……?

(主人公「可愛い子の前だから」)

か、可愛い子の前だから?

それだと……私以外でもこうなるってことになっちゃうけど……。

フッフ、言葉の綾として受け止めておきます。

今日はね、これ……私がスッキリさせてあげたい。

見るのもやっとだけど……彼氏のために、頑張るから。

さ、触ります……っ。

(ペニスを握る)

ひゃっ……!

あ、熱い……っ? それに……柔らかいのに、芯が硬い……。

これを……自慰の時みたいに、上下にすれば、いいんですよね……？

……いきますよ？

うう……ふう、う……。

(主人公「ちゃんと見て」)

んうう……み、見れないんですよ……！

恥ずかしくて……っ、冷静に考えて、こ、これが私への欲情だとしたら、うううっ、私は、これを嬉々として擦るべきなのか……っ。

ううっ、う……これは……女として、いい行為なの……？

(主人公「当たり前だよ」)

うう、う……そ、そうなの……？

いいの……これ……？

ふう、ふう……っ、

なら……ちゃんと見てあげなきゃ……失礼、だよな……。

ふ、不思議な光景……っ。

男性の大事なところが……私の手の動きで、捲れて……っ。

痛くないんですか……？

こんなに、擦られて……摩擦熱で皮膚が痛むんじゃ……。

(主人公「痛くないよ」)

んう……それなら、いいんですが……。

ふう……ふう……とは言っても、乾いた状態では……、

んっ……無理させることになりそうです……。

こうっ、して……っ、密着した方が……、

興奮するんでしょうか……？

んう……ふう、ふう……ん……。

先に言っておきますけど……体が熱いのは、恥ずかしいからです……。

んう……興奮ではないです……。

うう……んん、う……ふう、ん……ん……。

ふう……ん、う、ん……。

あ……っ。
脈打ってませんか……？
ココ……こんなに脈打つんですね……っ。
んう……う……。

鼓動が、興奮を示すなら……、
愛情を注ぐのが、もっとも効率的に、貴方を満足させることに……。
……よし。

んう……っ、これなら、どうでしょう？
自分でシテた時も……この早さで、してましたよね……？
これが……最適な速度のはず……。

高速で摩擦して……んん、感情を込めて、
動かすことが……愛情を注ぐということ……！
うう……っ！
よく見ると……っ、先端からなにか溢れてます……。

(主人公「カウパーだよ」)

か、カウパー？
んう……事前に、調べておけばよかったですね……。
んう、う、ん、このぬめり気のおかげで……ん、上下の摩擦も、少し辛くなさそうに見えます……
んう……。

でも……私は、依然として恥ずかしいまま……！
んううっ、これを直視する方法が知りたいですよ……っ。
うう……ん、うんう……ツ。

(主人公「出るよ」)

へっ！？ で、出るんですか？
出るって……精液、が……？
わかりました……どのみち、この次の行為に用があるので……手は、早めに終わらせましょう
……。

それで、どうすれば出せますか？
このままでも？

(主人公「早く動かしてくれると助かる」)

早く？ わかりました。
んう……っ、これでどうですか……？
ふう……ん、ん……っ、人生で一番、手を上下に動かしてます……ツ。
ふう、ふう……んん、う……っ、出して、ください……っ。
精液は……っ、

私の、股にかけてください……っ。
制服にかかると……明日、登校できないので……っ。
ふう、ふう……来て、ください……っ。
おちん、ちん……っ、来て……ツツ。

(ぶっかけ射精)

ん……ツ！
あ……出てる……！
はああ……私でも……できた……！

射精、させられた……っ！
フッフ♥ よかったあ……。

私の拙い手で……こんなにたくさん……ありがとう……♥
見てください……股に、べっとりと……スライム状になった貴方の精液……。
私に興奮して……出したんですよね……。
色気のない私に、こんな……。

ティッシュ、貸してください。
それと……続き、しませんか？
一つ屋根の下の男女は……手だけで終わらないこと、さすがに知ってますから。
ただ、ひとつ条件があるの。
……いまから……視界を奪います。

=====

●トラック6:会長カノジョの処女喪失&目隠しエッチ

●背景:主人公の部屋・寝室(夜)

(トラック5の続き)
(目隠しをしているところからスタート)
(主人公は下半身裸。緋咲は制服姿)

これで……どうですか？
ちゃんと視界、奪われてますか？

(主人公「見えないよ」)

ありがとうございます……。
本当は見せるべきなんでしょうけど……電気を消したって時間が経てば見えてしまうし、目を背けてても絶対に意味ない。
だから、目隠しをしなきゃいけないんです。
私が、貴方とエッチをするためには……。

(主人公「そんなに恥ずかしい？」)

は、恥ずかしいに決まってる！
初めてなんです……大事なところを晒すのも、経験そのものも……。
少し、待っていてください。

(緋咲、コンドームを取り出す)

なにも言わずに……その、コレ、根元を押さえててください。

(主人公、ペニスの根元を押さえる)

ありがとうございます。

(ゴム装着)

ん……う……。
こう……？
向き……合ってるのかどうかすら……。

あ、入った……！
OKです。
それでは……
エッチ、しましょう……。
初めてなので……優しく、お願いしますね。

(緋咲からキス)

ちゅ……んん、ちゅ……。
それと……着衣のままをお願いします……。

(緋咲、正常位の体勢に)

見えないと思いますけど……、
触りながら……なんとか、入れてください……。
私のは……ココです。

(ペニスが擦れる)

ううう……っ。
んっ……そこです……き、来て……ッ。

んうう～～～……ッ！
ゆっ、ゆっくり……ッ、あ、あああああ……ッッ！

(根元まで挿入)

んう～～～～……っ！
うううッ！ はあ、はあ……うう～～～……んく！ んう……！

苦しさが……ツ、ありますね……ツ。

(主人公「狭すぎる……っ」)

ふう、ふうっ！ 狭い、ですか……っ？

ごめんなさい……ツ、締めてるわけじゃないんです……っ！

うああっ、う、うう……んん、う……ツツ。

(主人公「大丈夫？」)

はあ、んう、ん……はい……大丈夫です……。

ああ、それと……動く前に、ふたつだけ、約束してください……。

絶対に、私とエッチしたことを誰にも言わないこと……。

それと……んんうう、達する時は、絶対に、私のナカでお願いします……ツ。

愛を、感じたいので……。

ひゃ……ツ！

ご、ごめんなさいっ！ 声出しちゃった……ツ！

はあっ、はあっ！ も、もっと私の方へっ、寄ってください……ツ！

うううツ、うツ、声、出ちゃうから……っ！

んううう……っ！ あああっ、うう、ンツ！

ふう、ふうっ、ふう、ふう……っ、

ああっ、いま、抱かれてるん、ですよ……ツ！

男性に……っ、いま……ツ、ああっ、アツ、うん、ンツ！

抱かれ、て……っ、うううう、う……ツツ。

ふう、っ、ん、ンツ、あっ、ああ……ツ。

んううツ、ん……っ、恥ずか、しい……っ！

ううツ、ンツ、ううツ、ん、んう～～……ツ！

ふう、ふう……ううううツ、んく、う、ううう……ツツ！

恥ずかしいっ、けど……ツ、はあ、はあ……っ、あのっ、

これ、言っても、はあ、ん、んう、嫌わない……？

(主人公「大丈夫だよ」)

はあっ、はあっ、ん、んう、なら、言います……っ。
んうううう、ンツ、あの……っ、気持ちいい……ツ。
ああっ、ん、ンツ、いままで、感じたことない、気持ちよさ、感じさせてもらってます……ツ。

うううツ、んううツ、あ、はあ、はあ……ツ。
でもっ、んうう、ごめんなさい……っ。
あああっ、ダメ——うううう……ツツ！

(緋咲のみ絶頂)

ううううううツツ！
アツ……はあ、はあ……んん、んう……ツ。
か、勝手に、達してごめんなさい……っ。
んう、ン……ツ、気持ちよくて……思わず……っ。
はあ、はあ……っ、もっと、動いても平気ですよ？
ふうう、ん、んう……たぶん、耐えられます……。
んうう……んく、ん……ツ。

うううううっ！ はあっ、ん、うう……っ！
ううくツ、う……ツ、アツ、あ……ツ！
これに慣れたらっ、はあっ、ああツ、私は、
もっと、んんん、ンツ、大人に、なれるかも……ツ！

うううううツ、ああっ、はあ、はあ……ツ！
んう～～ツ、ああっ、はあ、はあ……ツ。

んううツ、ん、ふう、ふう……ツ！
んんん、んっ！ き、キス、してください……ツ！
ふうう、ふうう！

んむうううっ！ チュツ！ アツ、んんん、チュツ！
ふう！ ふう！ んううう、ちゅっ！ チュツ！
はあっ、んんむ、チュツ、ちゅんん、チュツ！

ふう、ふう！ んむ、チュツ！ チュツ！
はあ、はあっ、んん、チュ！ う～～ツ、んんん、ちゅ！
んうううツ、ちゅっ！

はああっ、んう、んっ！
私、またっ……うううツ、ん……ツ。

(主人公「俺も……限界」)

はあっ、ん、んうツ、貴方も……っ？
はい、どうぞ……んん、んっ、着けてますので……ツ、
そのまま、出して大丈夫です……ツ。

んうううう……ツ、あ、あああ……ツツ。
んん、ンツ、ンツ！ ふう、ふう……んんん、ンツツ！
ああああっ、きちゃう……っ！
う～～ツ、ンツツ！ 一緒につ、来て……っ！
んうううう～～～～～～ツツ！

(同時絶頂(ゴム内射精))

ああツツ！
来たツ……ああああ……ツツ！
ふううツ、んく、ううツ、あ、あああ……ツツ！

なんとなく、伝わってきます……ツ。
ナカで……出ている心地、が……っ。
はあ、はあ……んん、う、うう……。
ふうう、ふう……ん、ん……、ありがとうございます……。
ふううう、ん……。

山場を越えて……んん、ようやく、恋人としての心作りが、
できた気がします……。
わがままで……要求ばかりの経験にしまっていてごめんなさい……。
でも、私は……、

気持ちよかったです……♡

愛が、ありました……♡

=====

●トラック7:初体験後の会長

●背景:生徒会室(夕方)

(このトラックは緋咲の視点になります)
(トラック6の数日後)

◆結

会長、様子おかしくないですか～？

◆緋咲

そんなことないわよ。

◆結

いや、絶対におかしいです。

◆緋咲

あのね……根拠のないことを言わないように。
貴方も生徒会ならそういう根も葉もない――

◆結

がに股になってる。

◆緋咲

えっ！？
あっ！

◆結

アハハ！　そもそも顔が全然違いますからね～。
女の顔になってる♪

◆緋咲

もお……貴方ねえ……。

◆結

ルールは大事ですけど、自分の気持ちになるのも大事です、たぶん。
会長だって、少しくらい自分に甘くたってバチ当たりませんよ。

◆緋咲

……そうかもね。

私も……あの人に——あっ！

こ、こういう話はいいの！ 生徒会の話！

◆結

会長かわい～♪

◆緋咲

結ったら……！

からかわないの……もう。

私……そんなに変わったのかしら……？

=====

●トラック8:初めてのホテルで真面目な会長が口奉仕

●背景:ラブホテル(夕方)

(主人公、ラブホテルのベッドに座っている)

(ふたりともバスタオル姿)

(遅れて緋咲が浴室から出てくる)

お待たせしました……。

緊張、するね……。

ホテルなんて、初めて……。

このホテル……ほかにもカップルが居て、い、いかがわしいことしてるんでしょ……！？

なんか、こう……………すごいね……。

(主人公「緊張してる？」)

……え、ええ！ 緊張するに決まってる！
ホテルで、タオルだけ巻いた格好……！ これからエッチしに行くと考えたら……さっきシャワー浴びてる時、ずっと胃がキリキリしてた……。

……でもっ、私は恋人。貴方のために喜ぶことがしたい。
……タオル、取るよ？
貴方の、見たい。

やっぱり……上向きになってる。
苦しそうだから……私がスッキリさせてあげるね？

ちゃんと勉強してきたの。
真面目ちゃんはおしまい。
貴方の前では……イケナイ子になる。

すう……ふう……すう……。
……いきます。

(舐めフェラ開始)

れろ……れろ……ん、ちゅ……れろ、ちゅ……。
ん、ちゅ……れろ……ん、ちゅ……れろ、れろ……ん、ちゅ……。
れろ……んぷ、ん、ちゅ……ん、ちゅ、んん、ちゅ……。
どう……かな……？
ちゅ、ちゅ……あつー

恥ずかしいから、見ないで……。
ちゅ、ん、ちゅ……れろ、ん、ちゅ……っ。

見たい気持ちは尊重するけど……ちゅ、ちゅ……ん、ちゅ、
私には、耐えられなくて……。

れろ、んむ、ちゅ……ちゅ……ん、ちゅ。
れろ、れろ……ちゅん、ちゅん、ちゅ……。
そっと、見守るくらいでいて……。
ちゅ、ん、ちゅ……れろ、れろ、んん、ちゅん、ちゅ……ん、れろ、れろ……。
ちゅ……んん、れろ、れろ……んん、ちゅ……。

(主人公「啜えられる？」)

れろ、れろ、え……？

啜えてほしいの？
んー……顎外れたりしないのかしら……。

……わかった。
真面目な貴方でも、そんな要求するのね。
フフ……恋人として、頑張る。
ちゃんと、受け止めてね。

んう……………ん……。
いきます……。

んむうう、ちゅ、ちゅぶ、ちゅ……ツ。
んうう、チュツ、ズズズツ、ちゅ……んぶぶ、ちゅ……ツ。

こう？
ちゅるる、ちゅ……ん、チュツ、
ひ、品のない音立ててごめんなさい……。

ちゅ、んん、ちゅ……チュツ、啜る時は、ちゅる、ちゅ、
音を立てるなど教わってるのに……。

(主人公「立てていいんだよ」)

ちゅぶぶぶ、ちゅ……ん、ちゅ……つ。
え……？ ちゅる、ちゅ、いいの？
ちゅ、んむ、ちゅ……んん、ちゅ、な、なら、厚意に甘えさせてもらおうかしら……。

ぢゅ……ぢゅん、ぢゅ……んぷ、ぢゅ、ぢゅる、ぢゅ……。
んぷ……ぢゅ……んんん、ぢゅ……ズズズツ。
ぢゅ……んん、んく、ん、ぢゅ……ぢゅ……。

でも、気持ちいいものなの？
ぢゅる、ぢゅう、ぢゅ……んん、ぢゅ……つ。
どうすれば気持ちいいのか……ぢゅ、ぢゅ……、
恋人なのに、理解できてない……。

ぢゅ……ぢゅん、ぢゅ……ヂュツ……。
んうう、ぢゅん、ぢゅ……んう、ん……つ。

(主人公「興奮するけどね」)

ぢゅる、ぢゅ……興奮してるの？
んん、ぢゅ、ぢゅる、ぢゅ……つ、それはそれで、想像すると気恥ずかしい……。

ぢゅるる、ぢゅ……ツ、私、んむう、ぢゅ、ヂュツ、
性的に見られてるんだって……ぢゅうう、ぢゅ、ドキドキしてくる……。

んん、ぢゅ、ぢゅる、ん、ぢゅ……んん、ぢゅ……ツ。
恥ずかしい、んん、ぢゅ、も、もう出してほしい……。
ぢゅう、ぢゅん、ぢゅう、ん、ヂュツ、
恥ずかしくて、んん、ぢゅ、続けられない……。

(主人公「いいよ。出すよ」)

んんむ、ぢゅ、ぢゅう、あ、ありがとう……。
ぢゅう、ぢゅ、その代わり、最後まで、啜えるからね。

ぢゅっ、ぢゅっ、ぢゅっ、ぢゅ……っ！
んむっ、ぢゅ、ぢゅる、ぢゅっ、ヂュツ！ んう、ヂュツ！
ぢゅるッ！ ぢゅ、ンツ、ヂュツ、ヂュツ！
ズズツ、ぢゅッ！ ジュツ、んく！ ぢゅっ、んんん、ぢゅっ！

来ていいわよ……っ。

ヂュツ、んむっ、ぢゅっ、ぢゅ、ぢゅっ！

来て……っ！

ぢゅう~~~~~……ツツ！

(口内射精)

ンンンンツツ！

けほッ！ んぷううう……っ、んっ！

んぷ、んう、ん……んんう、ん……ツ、はあ、んく、ん……っ！

ふうう、んんくん、んんん、ん……っ！

ふう、ふう……んんううう、ん……っ！

出された……っ。

んんぷ、んう、ん……っ！

やだっ、喉に引っかかって——

ごくう、ごく……ごくっ……！

ぷはあ！

の、飲んじゃった……！

大丈夫かしら？！

(主人公「有害じゃないよ」)

そ、そうなのね？

んう……よかった……。

はあ……子種を飲むなんて、昔の私じゃ考えられないわ……。

ふう……これも大人の階段をのぼったのね。

付き合ってくれてありがとう。

ねえ、続きをしましょ？

後ろにあるコンドーム、取って。

つけてあげる。

練習してきたの。

=====

●トラック9:真面目ちゃん終了！初めての生性交

●背景:ラブホテル(夕方)

(トラック8の続き。フェラで射精をさせた後)

(主人公、コンドームを緋咲に渡す)

ありがとう。

さて……。

見てて。

私が、つけていくから。

(ゴム装着)

……ん……………こう、かな……。

できたわ♪

練習したの。これで完璧ね♪

さ、あとは——

来て……。

(主人公「濡れてるね」)

や、やだ……っ。

濡れてるなんて、言わないで……。

というより、見ないで……。

いいから……来て……。

ん……ふう……………。

欲しいの……早く……。

んううう……っ！

(根元まで挿入)

うううう……っ。

んっ……んう……あ、あっさり入ったわね……。

はあ……はあ……んんく、ん……。

吸いついてるような感覚……んくう、ん……ふうう……ん……。

気持ちい……。

あっ！ うそ……っ、んうう……ッ！

激しいわ……っ！

ひゃっ！ アッ、んうっ！ どうしてそんな激しいの……っ？

(主人公「ムラムラしてるから」)

んう、んっ、ンツ、ムラムラ？

はあっ、う、ううツ、なら、仕方ないかしら……っ。

うううう、んく、ンツ、ん……ッ！

はあ、はあ……んん、んく、ん……っ！

興奮させる、のはっ、恋人の遵守(じゅんしゅ)……っ。

んう、ンツ、はあっ、ん、んう、ツ、愛と思って、尊重するわ……っ♥

(胸揉み開始)

あっ！

んっ、んっ！ む、胸まで……っ！

ふふっ、んん、ん……ッ！

今日はっ、大胆ね……っ！

あっ、あっ、ん、んう！ あのっ、正義心に溢れた貴方が、

んん、ンツ、ンツ、年下の胸を、こうもっ、んん、んっ、執拗に……ッ♥

んう、はあっ、はあっ、ふふ、んん、ンツ。

気持ちいい……っ、ん、んっ、貴方が触っていいのは、私だけ……ッ。

なら、んん、んっ、遠慮なく、触らせてあげなくちゃね。

んう、ふうう、んく、ん、んううツ。

はあ、はあ……んん、んく、ンツツ。
我慢、できない……っ、っああッ、んんんツ。
イツちゃう……っ。
ふうう、ん、んううっ、お願い……っ、イカせて……っ。

んうううううツツ！？
あっ、貴方もツ？ んうう、あっ、あっ！
貴方もっ、一緒に……ツ？
あああッ、んう、んっ！ あっ、あっ、はあっ、あっ！

んう～～ツ！
もっと、まったりしたかったけど……ツ、
んあああ……んん、ンツ、ん……ツツ！
一緒に、終わしましょ……っ♥

んううツ、んンツ、好きよ……っ！
あああッ、イク……ツ！
んうううう～～～……ツツ！

(同時絶頂(ゴム内))

あううううツツ！
あっ！ はああッ、んく、うう、んんう……っ！
はああッ、あ、ああ……っ、んん、んうっ、あっ、熱い……ツ！
あっ、ああッ、ん、んう……っ！

フフ、これは愛の感触？
んんっ、あっ、あっ、嬉しい……っ♥
んん、ふううう、んく、ん……っ。

(ペニスを抜く)

あああ……ツ！
はあああ……ん、ん……。

もう抜いちゃうの……？

……あ、ううん。抜いていい。

(四つん這い→正面で向かいあう)

まだ、続けたいから。

ねえ、次は……私が動いてみていい？
いつも貴方にばかり押しつけて、
心のどこかで、自分はまだ規則を守ってるって気持ちでいたけど……。

(押し倒す)

フフ……。
もう親と学校の言いつけを守るだけの子供でいるのは辞めた。
恋人には、素直な自分でいるの。

だから——

(ゴムを外す)

コンドームはいらない。

そのまま……入れちゃう。
これが、私の気持ち。
んううう……。
今、剥き出しの貴方と繋がりたい……♥
はああああああ……♥

(根元まで挿入)

んっ！ んうう……これが、おちんちんの感触……♥
壁越しの快感と、そのままじゃ……全然違う……♥
んくう、んん、ン……ふううう、ん……んん……。
今から、私の番♥

んううう……ッ！

はあっ、ううッ、ん……っ！

あっ、

恥ずかしい、からっ、

見ないで……っ。

んう、んう、はあっ、ん、んうッ、アッ、んう、ンッ。

んん、んく、んっ、恥ずかしくて、顔、見せられないっ、

んんん、んっ、見せられない、けどっ、んううッ、ンッ、

私のお、おっ……おまんこ、で……っ、

伝わってる、よね……？

はあっ、はあ……んんう、んっ、こ、腰の動きは、練習してないわよ……ッ！？

んん、ンッ、ンッ、そんな、恥ずかしくて、んん、んう、

練習できない……っ。

はあっ、ん、んうう、ンッ。

ぶっつけ本番で……んん、んっ、貴方のおちんちんに、動かされてる、感じよ……っ。

ふうう、ん、ンッ、はあっ、ああっ、んく、ンッ。

いえ、おちんちんだけじゃないわ……ッ。

愛ッ、んん、んっ、愛の力が、んんう、んっ、恥じらいを越えてッ、ああっ、ンッ、腰が、自律して動いてるの……ッ。

ふうううッ、ああっ、んん、ん……ッ！

はあっ、はあっ、んん、ンッ！

あっ、んうう、ンッ、んっ、んっ、恥じらいはっ、ある、

んうう、ンッ、羞恥心ッ、まだ、溜まってるけどッ、

んん、ンッ、したいことあるから、んううう、んッ、目、閉じて……？

はあっ、はあっ、んん、ん……っ、ん……ッ。

んうう、んう、んっ。

これがっ、私の気持ち……ッ♥

んぷううんん、ちゅっ！ チュッ！ んんん、チュッ！

ふう、んぷ、ちゅん、ちゅっ、んんん、ちゅッ！

はあ、はあ……んん、ちゅん、チュッ！

アツ、ん、ちゅん、ちゅっ！ 好き……っ。
んんちゅ、ちゅんん、チュツ、アツ、んん、ちゅ、愛してる……っ。
んむ、ちゅん、チュツ、んん、チュツ、ちゅううううッ！

はあっ！ はあっ、はあっ……っ！
愛してるから、こそ……っ、

ンう~~~~~ツツ！
最後はっ、な、なッ……中出しッ、してほしい……っ！

(主人公「デキちゃうぞ！？」)

んんうううッ、んっ！ ええっ、妊娠は覚悟の上ッ！
んん、んっ！ それよりもっ、私の気持ちに、素直になりたいのッ！
貴方を愛してるっ、ん、んっ！ 今っ、その気持ちが、熱くてっ、苦しくてッ、
アツ、ああっ！ どうにかっ、形にしたくて仕方がなくて……っ！
んうううッ、はあっ、はあっ、あっ、ああッ！

んううううッ、ん……ツ！
出して……っ！
んんうあっ、ううう、ンッ！ 中にッ、んうう、んっ！
アツ、うんん、ンッ、平気よッ、責任ならッ、んん、んっ、一緒に果たせばいいからッ♥
んんっ、ンッ、私、貴方に守られるだけの女になんて、ならないッ。
ん、ンッ、貴方のこと、私も守るッ♥
だからっ、遠慮しなくていいのッ♥

あああっ、ツ、んうう、ンッ！
さあっ、来てッ♥ 愛をッ、私へ……ツ♥
んう~~~……っ、イク……ツ、ああああっ、来てッ！
出してええええええ……ツツ！

(同時絶頂(中出し))

あああああ……ツ！
んう~~~……ツ！
んくッ！ んううう、アツッ！ はああ、はああツツ！

うくうう……んん、ん……ツ！

ふううつ、ん、んうう……つ、あッ、ああああ……ツツ♥

これがっ……子作り……？

ああっ……ん、ンツ、フフ、会長なのにつ、んううつ、んツ、
みんなより、イケナイことしちゃってる……ツツ♥

あああつ、はあつ、ん、んう……でも、んん、んっ、自分に嘘つけなくて、
ああつ、あつ、ああ、んん、んっ、後悔、してない……♥

はあつ、はあ……んん、んう、はあああ。

ん、んくううう……んんう、はあ、はあ、ンん、ん……。

検察官になることが、私の夢……。

ただ、それと同等か、それ以上のものを見つけちゃった……。

んう、ん、でも、家庭には入らないわよ？

フフフ。私は私らしく……んん、貴方の隣に居たい。

いつか、赤ちゃんは欲しいけど……、

それ以上に……自分の生き方を通して、貴方と、これからも愛し合いたい。

こんな私を口説いたんだもの。

理解してくれるんでしょ？

フフフ。